

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：みなとみらいくばがさ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：土屋 はるか	定員（利用人数）： 80名	
所在地：〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-7-1オーシャンゲートみなとみらい1階		
TEL：045-228-8878	ホームページ：http://www.living-platform.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2016年3月31日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ナーサリープラットフォーム		
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 6名	
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士 1名	
	主任保育士 1名 調理員 2名	
	保育士 16名 保育従事者 2名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	0歳児室、1歳児室、2, 3歳児室、4, 5歳児室、事務室、休憩室、調理室、調乳室	沐浴槽、0,1歳児トイレ、2,3歳児トイレ、4,5歳児トイレ、職員トイレ、シャワー室、非常口（2）、倉庫、冷暖房及び一部床暖房完備

③ 理念・基本方針

「共に遊び、共に学ぶ」を保育理念とし、遊びを通じた教育活動から思考、感性、心の成長へつなげるために、保育指針に基づき、成長に合わせ園生活の中で自然と身につけられる環境を提供する基本方針であります。

保育目標は創造的な思考を促すために、子ども自身が自由な発想で学びたいことを選び、挑戦できる教育を提供する。また、見る、考える、行動することで自分を表現し、作り出す力を養う保育を実践していく。なお、保護者や地域と連携し、安心安全を第一に考えながら、社会性、優しさ、思いやりを育み、ありがとうやごめんなさいをいえる姿を目指す。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

みなとみらい駅から徒歩3分という立地で近隣には臨港パークや高島中央公園等、子どもたちがのびのびと遊べる場所がたくさんあり、基本的には外遊びを中心として自然に触れています。幼児教育においては、英語、珠算、IT（タブレットを活用したアクティブラーニング教育）を教育の3本柱としてプラス体操も取り入れています。英語は専任の外国人英語教師が週1日、2歳児～5歳児クラスのレッスンを行い、1日常駐しているため、子どもたちと散歩に出かけたり、室内遊びをしたりしながら、子どもたちと多く関わるようにして英語に親しみやすい環境づくりをしています。珠算は月4日、専任講師を外部から招き、5歳児クラスは4月よりグループに分かれてレッスンを行い、4歳児クラスは、10月よりレッスンを行えるように「1から10までの数字の読み書きを目標」としてクラスで「はなまるタイム」（数字に親しめる時間）を設けて準備をしています。IT教育は職員がトレーニングを受けて子どもたちに提供し

ているものです。例えば、子どもたちが塗り絵をしたものをiPadに取り込んで映像の中で動き出したり、iPadで写したものを塗り絵の色に反映させたりして、ITに親しめるようにしています。体操は月3日、専任講師を外部から招いて各年齢に合わせてレッスンを行っています。自分の身体をコントロールできるように、怪我をしない丈夫な身体作りを目標としています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 7月27日（契約日） ～ 2023年 3月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

**災害に備えた体制作りに努めている**

園舎の立地から、津波・火災・地震に備えた訓練を毎月想定を変えて行っている。テナント管理センターにも協力を得て、津波を想定し、ビルの上に避難（垂直避難）する練習を行っている。また、定期的に隣のビルと合同の災害訓練もしている。職員は園外でも対応できるように散歩リュック内に緊急対応表を入れて、どんなときでも対応できるように準備している。

**子どもの主体性を大切に、一人ひとりを尊重した保育に取り組んでいる**

日々の活動や行事などにおいて、子どもの興味・関心や意見を多く取り入れるようにしており、話し合いの機会を持ち、一緒に作り上げることを大切にしている。幼児クラスでは朝の会で先生の話聞き、自分の意見を言うことができるように援助し、運動会、お楽しみ会などの行事においても協力し合うことで達成感や自信につながり、成長が見られていることが報告されている。

**園全体で様々な観点から子どもの育ちについて見守っていけるようにしている**

経験年数や年齢の異なる職員同士で話し合いを行う事で、様々な視点からの意見や情報の共有ができており、異なる立場から意見を伝え合う事で互いの専門性の向上につながっており、また、それぞれの抱える悩みの解決に結びつくような取り組みとなっている。毎日の保育での反省点や自己評価も、すぐに他職員と話すことができたり相談できる環境であり、日々保育の改善に取り組むことができている。

今後期待される点

**ホームページでのわかりやすい情報提供に期待したい**

利用希望者にとって、ホームページは時間や場所も選ばない利便性の高い媒体であるが、現在、当園のホームページで確認できる内容は、園の概要、保育内容、施設写真などの情報にとどまっており、理念などについて触れられていない。園について、サイトからの問い合わせや内容の見直し等を図り、さらにわかりやすく情報提供できるよう検討されたい。

**感染状況を踏まえ、様々な取り組みの再開を目指している**

コロナ禍において、系列園との交流の機会を中止していること、地域や小学校との連携に制限が設けられていることなどのほか、保護者支援においても給食試食会や行事参加の中止などがあり、次年度への課題と考えている。多くの人との交流する機会を持つことは、子どもたちにとって良い刺激となるため、引き続き感染拡大防止対策を講じながら、取り組みの工夫に期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

初めて受審し、職員が協力して項目ごとに話し合い、考えながら進めたことで職員間の団結力が深まったと感じます。また、より一層、保育や園全体の運営に対しての発見や見直し、改めて気づいたこと等があり、見通しが持て、課題に取り組む機会や共通理解を得られたことも利点となりました。今回の結果を踏まえて保育園運営に関する改善点や検討事項等を話し合い、よりよい保育園運営ができるよう努力していきます。なお、保護者の皆様には、アンケートにご協力をいただき、感謝すると共に、いただいたご意見を保育園運営に反映できるよう、開かれた保育園を目指していきます。これからも保護者の皆様や地域の方々、関係機関等と協力し、子どもたちが伸び伸びと安心できる環境の中で、安全に過ごしていけるように努めていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり